

川の祇子口をさるゝて急流——なる希代乃
後事なりと今に人口は少きなりそ昔はまら
急流はまはた村へ懸りて古人を案問と——山
城は上へ落しけりと言ふ伝は言はた城は
昔の上の形なり元内へ急流は今急流
の親言なり村は其頃の次なりといふ村居
の様子歌は似たり或人曰寛永正保の頃
は急流は心ごとく

一草津村

は村は地渡をさるゝ草津はクサウツの略

なり城は五葉目観村も地渡あり燈明に
用といへりは村の地渡は制法あり——さや
燈明はなりと云ふ又当村の山入は湯あり
往年酒田所人玉は長をまつといふものけり
は假屋を建て湯を試といふ水更出て熱
り——なす止る当村は小松氏のる姓あり
平泉の子孫の落居れり所や小松氏の
墓と稱するあり

一下黒川村

當村は久——さ村なり頼朝卿所